

はじめに

「何事も中途半端で飽きっぽくて……」

「英語がもつとできたら……」

「もう少し顔がよければ……」

など、多くの人は自分に欠点があり、それが足を引っ張っていると思っています。その悩みが切実な人ほど、どうにかして欠点を克服しようとかんばり、そうでない人たちはあきらめてしまうのではないのでしょうか。

でも待つてください。じつは欠点など直す必要はありません。なぜなら、**あなたの欠点や弱みがあなたを幸せにする**からです。

一般的には、欠点や弱点は直すべきものとして考えられていると思います。

最近では「成功するための法則」「できるビジネスマンになるための方法」といった類い

の本やセミナーにあふれています。それらはスキルアップや自己投資といった言い方で、ある意味、欠点を直すことの大切さを説いています。

しかし、本当に欠点を直したり、つねに成長しつづけることでしか幸せは得られないのでしょうか。

僕は以前勤めていた会社で、上司からパワーハラスメントを受けていました。

その詳細をみなさんにお話ししたら、「なぜ転職しなかったの？」というにちがいはありません。ほかの社員はその上司のことをイヤそうにしたり、逃げたりしていたのですが、そんなことは僕にはできませんでした。なぜなら僕は「断る」ことが大の苦手だったからです。もう「致命的」といっていいでしょう。

どうにかそれを克服できないかと悩み、そこで思いついたのが本やセミナーでした。

こんなにもいじめられるのは、自分の能力不足のせいにはちがいない。だったらビジネスパーソンとして、少しでもスキルアップに努めなければとワラをもつかむ思いで、「自己啓発書・ビジネス書」で成功者の紹介する成功哲学を勉強したり、能力開発系のセミナー

へ通いはじめたりしたのです。

それからはあつという間でした。時間がたつのが。そして、お金が消えていくのが。

どのくらいお金を使ったかという点、教材費とセミナー代で四百万円もの大金をつぎ込んでいたのです。

具体的には、たとえば上司からの仕事の指示は「メモとり禁止」だったため、耳だけで覚えられるように「速聴」が身につくという教材を買ってセミナーを受けました。それがなんと、お値段は百五十万円を超えていたのです。ほかにもコーチングやアサーティブ（自己主張）、なかには雑談上手になるためのセミナーというものにも積極的に参加していました。

ところが、これだけ必死に受講したにもかかわらず、上司との関係はいっこうによくなりません。

習ったことを実践しても、上司に暴言を浴びせられつづける毎日に変化はなく、それどころか、無理やり「マグロ船」に乗せられ、死ぬ思いで赤道近くまで漁に行きました。

上司の都合で振り回され、その間にたまった仕事を残業してこなす毎日。おかげで家に

は一月半に一度しか帰ることができず、趣味の昆虫採集もするひまがなくなった僕に、もはや心のゆとりはなく、しばらくするとうつ病を患い、休職を余儀なくされたのです。

僕がスキルアップ・自己投資にかけるモチベーションは、ほかの人よりも相当高かったと思います。何せ上司とは毎日顔を合わせなければなりませんから、この関係を解決したくて必死です。

しかし、本やセミナーで学んだことを実践しても上司との関係は改善できないし、仕事もうまくいかない。そんな経験から、成功哲学なんてないんじゃないかと思うようになっていったのです。

ところが、これらの経験は僕にある気づきをもたらしてくれました。それが、**欠点を利**
用することが幸せになる近道である、ということでした。

この考えのおかげで、僕は上司にじじめられなくなり、自分がやりたいことを仕事にして起業をするまでになりました。

そこで本書では、自分の「欠点」に対する考え方を変えていただくために、以下のこと

をみなさんにお伝えしたいと思います。

- 1 「欠点」はひっくり返せば長所になる
- 2 人生は「あきらめ」ればフケになる
- 3 「思い込み」が足を引っ張る
- 4 「運」と「時間」に頼ればうまくいく

この四つのことに気づくことができたとき、必要以上にがんばることや、ダメな自分に思い悩むこともなくなるはずですよ。

僕ほどではないにしろ、だれでも経験するのでしょう。

職が見つからない、給料が上がらない、家庭でいざこざが絶えない。どれも日常茶飯事です。いまの世の中ではけっしてめずらしいことではありません。

多くの人はそこで原因を自分の中に見いだし、どうにか解決しようともがきます。でも、

がんばっても疲れるだけで、いつこうに結果は出ません。

教えられたことを実践できない自分にも腹が立つし、実践できても結果を出せない自分にも腹が立つ。まわりの人は自分よりもできる人に見え、ついには自分がダメ人間に思えてくる。

この本は、そんな自分には欠点ばかりだと思っている人や、がんばらなくてはいけないと思いついで自分を苦しめている人たち、かつての僕のように答えもない答えを求めて悩んでいる人に、「**欠点を直さずに幸せに生きる方法**」があるということを、お伝えできればと思って書きました。

最後までお読みいただき、少しでも気がラクになって、あしたの朝ごはんがよりいっそうおいしく感じられるようになることを願っています。

欠点を直さずに幸せに生きる方法●もくじ

1

その

「欠点」はひっくり返せば長所になる

がんばってもどつともならなうことはある 014

人生は料理のレシピじゃない 020

「弱さ」はメリットだらけ 025

あなたはすでに完璧だ 030

欠点がない人は損をする 037

あらゆる体験は再利用できる 042

行きたくないところこそ宝がある 046

「よくないこと」も使う方じだい 051

同じエサの奪い合いをやめる 055

2

その

人生は「あきらめ」ればラクになる

ストレスのたまらない生き方をする 072

ポジティブ思考をやめてみる 078

「努力すればなんとかなる」は大ウソ 084

夢や目標をもたない人生もすばらしい 090

百個のうち九十九個のアドバイスは役に立たない 096

聞いているフリも大切 102

大変身は少しずつ始まる 107

その

3

「思い込み」が足を引っ張る

白黒はっきりさせない	1
自分も思い込みだらけだと気づく	1
主観的な客観視をする	2
本は読まなくてもいい	2
本当の評価はだれにも下せない	2
カリスマ経営者が人格者とはかぎらない	3
「時間」でさえ絶対的ではない	3
「コミュニケーション能力はなくてもいい	4
進化しているつもりでも、じつは退化している	4
「弱点・欠点」はフォースと同じ	5
理論はすべて後づけ	5

その

4

「運」と「時間」に頼ればうまくいく

時代に合わせず、時代が合うまで待つ	1
期待しないで、準備だけしておく	6
グレーゾーンな時間の使い方をする	7
いちばん大事なのは「運」	8
おわりに	8
参考図書	9

装丁・本文レイアウト | MORNING GARDEN INC.(田中正人)

DP | アートマン

編集協力 | コンセプト21・追道舎

編集 | 小野佑仁 | サンマーク出版



その

1

「欠点」はひっくり返せば
長所になる



がんばっても どっぴりにもならなうじよはあなる

世の中、がんばれば夢がかなう、といった雰囲気ですが、**がんばってもどうにもならなうじよ**です。僕にとっては、欠点を克服することがその代表例でした。

「欠点」は「克服」するもの——僕もそうだった考えをもっていた時期があります。

なんとか欠点を克服して、社会人として立派に成長しよう、成功した人生を送ろう！
そんな強迫観念にかられていたかどうかはさておき、僕も一時期「欠点直し」に専念しました。

いまでも僕には欠点がいくつもあります。欠点を克服しようとはがんばっていた当時は「話す」ことがターゲットになりました。いわゆる「会話」です。

たとえば、セミナーが終わったあとの懇親会はだれでもだれとでも話していい場所です。

実際に参加者は気軽に声をかけあって、セミナーの感想だけでなくいろいろな会話を楽しんでいきます。ところが、だれもが簡単にできるそんな何気ない会話が、僕にはできません。内気なので話しかけることを遠慮してしまい、懇親会の間はずっと人の話を聞いてしまうのです。大人数でする縄跳びに入れない感覚に似ています。どこで話の輪に加わったらいいかわからないわけです。

ときには、「なぜこんなにつまらない話を聞かなくちゃいけないんだ！」と、腹立たしく思うこともありましたが、それでも口からはなかなか言葉が出てきませんでした。

そこで、これではいけないと思い立ち、僕にとつての駆け込み寺であるセミナーに頼ることにします。このときは「話がうまくなる」セミナーですね。

そんなのあるの？ と突っ込まれそうですがもちろんあります。こんな僕のためにやさしい手を差し伸べてくれるセミナーが。

でも、残念ながらいくら練習しても上手にはなりません。そして、そのせいでまたよけいに落ち込みます。自分はどうしようもない欠陥人間だと決めつけ、できる人と比べることでショックを受け、よけいに暗い性格になってしまうのです。

0 その1

1 「欠点」はひっくり返せば

5 長所になる

僕のように欠点を克服できないと悩んでいる方は、世の中に意外と多いのではないでしょうか。

思うに、**欠点というのは、「キミはそれをやらなくていいんだよ」と言われていること**のような気がします。だったら、それを無理に**克服しようとする時間も労力も、もったいない**と思いませんか。

ところが何かの縁か、そんな「会話」に苦手意識のある僕でも、いまやセミナーの講師などをさせていただく機会が増えました。

とはいえ、講師としてはあくまでも伝えるべきことを好きなように話しているだけなので、一対一で話す会話とはニュアンスが違います。ですから、セミナー後の懇親会などは、いまでも隣の人と上手に話せず、すぐに会話が終了してしまうのです。つまり、いまだに会話ベタは直っていません。

また、僕は「会話」だけでなく「断る」スキルも決定的に欠如しています。

断れない理由はいろいろあります。勢いに負けて断るタイミングを逃すことはたびたび

ですが、相手の気持ちを察したり、いい人でいたいと思ってみたり、さらにずるいことに、断らずに仲よくしておけばこの先いいことがあるかもしれないと計算したりと、さまざま要因がからみあっています。

もちろん、断る力をつけるためのセミナーにも通いました。一回三千円の六回コースで約二万円の出費です。それに飽き足らず、「強い自分になる」など、いくつか似たようなセミナーもはしごしました。

ところが、セミナーで教わったことはセミナーでは実践できるのですが、実際の現場では無理だったのです。まるで、教習所ではなんとかなっても路上に出たとたんに事故を起こすかのようなでした。おかげで断ることについては、いまだに「仮免」以下の実力です。

断ることができないということでマグロ船に無理やり乗せられた以外にも、象徴的な出来事があります。

体育の成績がいつも「1」だった僕が、高校生のときに柔道部へ入部させられたのです。その柔道部というのが当時は西東京最強で、格闘家の小川直也選手の出身校としても有名でした。僕を誘って入部させた友人は、それこそ格闘家のように屈強で、とても断り切れ

ません。

しかし、さすがというべきかオリンピックをめぐす部活だけあって、土日なし、夏休みもなしという過酷なトレーニングに体力がついていかず、十か月程度で退部しました。あとに残ったのは冬空に寒々しい坊主頭だけです。

このように、僕は友人の誘いでさえも断ることができないのです。

一方、最近世間では「断る」ことの大切さが注目されています。仕事を選び、自分の時間をつくるために、断ることが大事なのだそうです。たしかに、断ることが必要なこともあるかもしれませんが、それはひとつのやり方であって、できるかできないかは別の問題でしょう。

僕がやろうとするとストレスがかかり、精神的にたいへんなのでまねしたくてもできずうにありません。

でも、「断る」ことができなくても、マイペースに生きていきます。断り切れずに契約してしまったサプリメントは、いまだに毎月送られてきて買わされていますが、いまのところ実害はそのくらいです。

誤解しないでいただきたいのは、欠点を克服するなといっているわけではありません。欠点を克服できる人はそのまま克服してしまっているのです。そういう方はちゃんとビジネス書などを読んでスキルアップして、どんどん強くなればいいと思います。

でも、僕がこれまでの経験から実感しているのは、僕の欠点のように、**がんばってもどうにもならないものもある**。そして、**欠点は無理に克服しなくてもいい**、ということなのです。



欠点を克服するのは時間と労力のムダです。

0 その1

1 「欠点」はひっくり返せば

9 長所になる

人生は料理のレシピじゃない

みなさんは巷ちまたにあふれている「自己啓発書・ビジネス書」をどのくらい読みますか？

取り上げられるテーマは同じようなことが多いです。そのなかでも「成功」というキーワードは、多くの本に共通しているのではないのでしょうか。

自己啓発書・ビジネス書が紹介する、これをやれば成功するというロジックは、たしかにひとつの成功例ではあります。

しかしそれは、著者がたまたまそのやり方でうまくいっただけで、後づけの理論だったりします。たまたまうまくいった要素をパッチワークのようにつなげ、これが成功のセオリーですと言っているだけなのです。

だから、著者の言うことを実行したところで、すべての人が成功できるという保証はありません。

人生は料理のレシピみたいに、「五分ゆでて、次に塩を加えて完成」とはいきません。

成功の方程式を知りたくて、そういうものがあるはずだと信じて、希望をもって自己啓発書・ビジネス書に手を伸ばすのでしょうか、そう単純ではないと思います。

いまの時代は競争が激化していて、おまけにリーマンショック以来の不況でビジネスパーソンとして生き残ること自体がむずかしい状況です。

でも、競争を勝ち抜いて社会で生き残ることはひとつの成功例でしかないと思います。成功の定義にもいろいろあるでしょうが、とりあえず、**成功するためのやり方は、けっしてひとつではないのです。**

生き物を見ると、そう思わずにはいられません。

たとえば「ナナフシ」——彼らはいっつ見てもボーっと突っ立っているだけです。とてもほかの虫と競争して勝ち残っているようにはみえません。競争を勝ち抜いてその結果があの姿だとしたら、どんな競争だったのか知りたいくらいです。

「ヒキガエル」もそうです。落ちていた十円を拾うよりも簡単に捕まえられますし、手に

乗せても逃げようとしません。彼らは闘争本能が全然ないですし、おまけに年間の活動時間は十一日くらいだろうといわれています。あとは基本的に寝ているのです。こんな生き方で、生存競争を勝ち抜いてきたとはとうてい信じられません。

そんな生き物たちを見ると、「**競争に勝つ**」ことが**繁栄するための唯一の方法**と**とても思えない**のです。

「進化論」で有名なダーウインがいうところの、「環境に適した種が繁栄する」ということを裏づける例はいくらでも集められますが、ナナフシやヒキガエルのように争わずにボーンとしていても繁栄している生き物も相当数います。

オリンピッククを見ていればわかるとおり、**競争するとほんの少しの勝者と、それ以外の大量の敗者がどうしても出てしまいます**。僕はそれをとても不毛に感じるので。

競争社会を生き抜くやり方を否定はしません。でも、競争に身をさらさなくても生きていく方法だってあると思いますし、それも「成功」のひとつだと思っています。僕はそれを生き物から学びました。

先ほど取り上げたナナフシは、体を枝のように見せることで天敵から見つかりにくくしています。その場所にいれば、エサとなる草が枯れたり、森が伐採されたりしないかぎりは生きつづけます。そんな**特殊な進化を遂げてしまえば競争はない**のです。僕個人は、どちらかといえばこのナナフシ的な生き方をめざしています。

ほかにもおもしろい生き方を教えてくれる生き物があるので紹介しましょう。それは地球に最初に登場した生き物、「シアノバクテリア」という単細胞生物です。いまでもそこらじゅうにいる生き物で、全然めずらしいものではありません。

このシアノバクテリアが地球に誕生してからしばらくすると、今度はシアノバクテリアを食べる別のバクテリアが新たに誕生します。

そこで、この自分を食べる憎つきバクテリアに対抗するために、シアノバクテリアは自分の体の中にほかの生き物を取り入れました。それが「ミトコンドリア」です。

ミトコンドリアは酸素をエネルギーに換えられるので、それを取り込んだシアノバクテリアにも酸素を利用する能力が備わります。結果的に何が起るかというところ、酸素を使うことでエネルギーの生産度合いがいままでと比べて一気に何十倍も増えたのです。

これによりシアノバクテリアが獲得したのが、天敵から逃げる能力でした。

自らは強くなれなかった単細胞生物のシアノバクテリアも、ほかの生き物を取り込み、その生き物に任せて天敵から逃れる術すべを身につける。このように、**自分自身が強くならず、他人に任せてしまうことも「あり」なのです。**

シアノバクテリアからみれば、成功哲学や適者生存などのロジックは大きなお世話だと思えるかもしれません。

「オレは三十五億年もこれで生きているんだから、これでいいんだ」と思っているかはさておき、やはり、**生きていく方法はひとつじゃない**ようです。



競争に加わらないで成功する方法もあるし、他人に競争してもらって成功する方法もあります。

「弱さ」はメリットだらけ

自分は強くない、と認めざるをえない場面にはたくさん遭遇します。社会人ならばなおさらです。上司の何気ない一言に傷ついたり、仕事をバリバリこなす同僚と自分を比べて落ち込んでみたり、弱い自分とコンニチハする機会はいくらでもあります。とてもイヤな気分になりますよね。

でも、本当に「弱い＝強くない」ことなのでしょう。ものは試しです。一度、「弱い」ことのメリットも考えてみませんか。

たとえば、極論かもしれませんが**強い人は弱い人の気持ちがあまりわかりません**。自分を基準に相手を見がちですから、自分ができて相手ができないことについては「なんでこ

んなことができないんだ！」と相手を攻撃することもあります。

逆に、**弱い人は弱い人の気持ちが届くほどわかります**。自分を基準に考えればよいにそうなるでしょう。たとえ相手ができないことでも、いっしょにがんばろうという気持ちに素直になれるわけです。弱い人の気持ちがわかれば、そこに共感が生まれます。これはメリットといえるのではないのでしょうか。

僕もご多分にもれず、弱い人間にカウントされます。一日に何回かはグチをこぼしたくなります。でも、周囲の人間にばかり聞かせていても申し訳ないので、飼っている虫に聞いてもらうのです。

「あんなふうには、言わなくてもいいよなあ〜」というぐあいには。

また、人のグチを聞く側にもあります。普通の人間はそれほど強くないので、**たまには弱音を吐くことも必要です**。

ところが、強い人は弱い人間のそんな心理状態を理解できないことが多いので、「そんなこと言ってるひまがあるなら手を動かせ！」というようなことを平気で言ってしまったります。営業部門であれば、強さを誇る上司は部下の言い訳も聞かずに、「四の五の言

うな！」と言って、また営業に行かせたりするでしょう。これではほとんど部下が疲れるだけだと思いませんか。能率だつて下がってしまいます。

さらに厄介なのは、相手が完璧主義者かたべきの場合です。人ができないことに対し、勝手にムツとして努力不足と断定します。弱点として認めてくれません。

また、欠点を克服しようと思ってそれを実践している強い人は、同じことを他人にも求めます。というか、相手の欠点を受け入れられません。そんな人が上司になるとたいへんなのはご想像のとおりです。

思うに、**強い人と周囲から認められている人にも、弱い面はたくさんあるはず**です。でも、弱さをみせてしまうと矛盾が生じてしまい、そこを他人に指摘されたりすると、「そんなくだらないこと言ってるなっ！」とバリアを張って自分を防御してしまうでしょう。

自分の中の「穴」のような弱さを指摘されると、そのイライラを他人に転嫁するべく、部下や上司、奥さんや恋人、しまいは子どものせいにしてみたりします。

ところが、自分は弱い人間だと認めてしまえば、だれだって弱いところがあるよね、と

認められます。それが、たとえ自分とは異なる欠点であっても、人間ひとつくらいできないところがあるはずだしね、と思えます。

変な見栄も虚勢も張らずに、相手の指摘も受け入れることができるはずです。それに、自分にはできない点がたくさんあると知っていれば、自分ってすごい！とは思わなくなるので謙虚さにもつながるでしょう。

勢いと根性でなんでも乗り切ろうとする姿勢、いつまでも限りなく虚勢を張りつづける人生。弱さを認められる人は、そんな生き方と無縁なのです。

僕はそれが本当の「強さ」につながるんじゃないかと思っています。

大木的な強さとは、ちよつとニュアンスが違います。大木的な強さは負荷がたくさんかかるのです。大木は、ときには台風や大雪で折れることもあります。反対に、いくら細くてもか弱そうでも柳は倒れません。風が吹くとなびくことで力を受け流します。雪が降ってもしななって、積もった雪を落とします。じつに「しなやか」なのです。

つまり、ダメな部分も認められて、人の弱さも理解できる——そういう「しなやかさ」**を持ち合わせた人が「強い人」**なのではないでしょうか。だから、「弱い」ことの最大の

メリットは、「強さ」につながる可能性も秘めている点なのです。

自分ができること、できないことがわかれば、「敵を知り己を知らば百戦危うからず」です。これもまた強さにつながりますよね。

むずかしいテクニックは必要ありません。まずは自分の中の弱さ、欠点を認めましょう。



大木的な「強さ」よりも、
柳のような「しなやかさ」をもちましょう。

あなたはすでに完璧だ

自分から進んでしているにしろ、まわりの雰囲気でもかたなくしているにしろ、自己投資・欠点克服にもがいているのが現代人ではないでしょうか。

でも、投資も克服もする必要なんてないと思います。だって、いまこの時点ですらでも「完璧」なのですから。

ここで僕がいう完璧というのは、いわゆる欠点のないパーフェクトということではありません。たとえ不完全な状態でも、いまの自分に与えられている条件で、自分らしさを発揮するためにはすでに完璧な状態だということです。

たとえば、事業を展開するときに、「お金が足りない」「人材が足りない」と不足しているものを数え上げてしまうことがあると思います。しかし、それではキリがありません。

いつまでたっても不足は十分に満たされることはないのです、それを理由にすると前に進めないのです。

お金や人がないのであれば、ないからこそ生まれる知恵もあるはず。現状という素材を最大限に生かしたほうが賢明です。

僕はサラリーマン時代に魚関係の仕事をしていたので、地方の港によく出かけることがありました。地方だからそれほど都会ではなく、はっきりいえば^{へんぴ}辺鄙な場所が多いです。信号機が一〇キロメートル以上もなかったりする場所もありました。

そういうところでは、ある商社の社員たちは「何もないところだし、地の利がすごく悪い」と不満をもちることがありました。でも、そう言っているから、何もできないんじゃないのかなと僕は感じたものです。

たしかに、東京に比べたらデパートはないし、コンビニも少ないです。ところが、生き物好きの僕にとってはそんな辺鄙な場所はワンダーランドに思えるのでした。なぜなら、東京ではまずお目にかかれないマンボウの刺身や、「もうかの星」という名でサメの心臓などがスーパーで売られているからです。

そういうものに価値を見いだす人もいるのです。何も「ない」と地元の人は言いますが、「ある」ものがカウントされていないだけで、**見方を変えれば貴重な資源はきつとたくさん存在している**と思います。

人間もいっしょで、いまの自分という素材を生かせなければ、いつまでたっても前進できません。それに、不完全なところや欠点、弱点を直そうとしてもキリがありません。そんなことに費やす時間こそムダです。

欠点修正に時間をかけるくらいなら、欠点をどう生かすかを考えて実行したほうがいいでしょうし、そもそも、欠点はずぶせないものだと僕は信じています。なぜなら、**欠点と**いうのは、長所と表裏一体****だからです。

そのひとつの事例をあげましょう。

あるとき僕の友人同士がおつきあいすることになりました。どこが気に入ったのかを女性に聞くと、「決断力と行動力があるから」と言います。それはすばらしい、僕なんか、どっちもないしなあ〜と思いつながら、笑顔いっぱい彼女のあのろけ話を聞きました。

ところが、数か月後に二人は別れてしまいました。なぜ？ と聞くと、彼女は「だって

自分本位に連れ回すから」と言うのです。決断力や行動力があることと、自分本位に連れ回すというのは表裏一体でしょう。見る角度が違うだけです。

反応が鈍い人は熟慮しているだけだったりしますし、明るい人ははしゃぎすぎて迷惑になることもあります。すべてコインの裏表です。ですから、どちらか一方を欠点とみて、そこを修正しても意味はないのです。

そんなことをするよりも、**自分を見る角度を変えていまの自分を肯定して、自分に備わった特徴の使い方を変えてみる**。それだけで道はパーツと開けていきます。それにそのほうが気楽ではないでしょうか。

思うのですが、「完璧になろう」「欠点をなくそう」と考えている人ほど、本番の舞台に立つのが怖いのだと思います。

いまはまだ完璧じゃないから、まだ本番の舞台に立つ必要がない。そうやって、自己投資・欠点克服を言い訳に使っているのではないのでしょうか。

たしかに、**本番はだれでも怖いものです**。僕も、講演会などでみなさんの前に立つ機会

がありますが、「物足りない」「言っている意味がわからん」「あそこはよくなかった」なんて涙が出るほどありがたいお言葉をいただくこともあります。でも、それを恐れずに本番に向かわないと力はつきません。

「セミナー中毒者」がいい例です。僕もかつてはその一人でした。セミナーに通うだけで、結局は仕事に生かすこともなく、前に進めなくなる人もいるのです。

セミナーに通うほどに自分に足りないところが見えてきます。僕もコーチングを勉強していたとき、「このコーチングを生かすためにも、早くクライアントの問題を解決できるようにならないとダメだ」と思い、コーチングのセミナーと並行して、短時間で相手の問題を解決できるというコミュニケーション術のセミナーへ通ったりすることで、いつまでたってもセミナー通いのループから抜け出せませんでした。

でも、それは僕の責任でもあるのです。本番の舞台上上がるということは試されるということですから恐怖心が先立ちます。傷つくのもイヤだし、自尊心ももろい。自分の理想が崩れるのを何より避けたいわけです。

でも、そんな自分に気づいたとき、僕はセミナー通いから抜け出すことができました。

自分探しという理想を追い求めることもやめました。そのときすでに、四百万円もの大金を投資していましたが、ようやく断ち切ることができたのです。

すべてはこれまで説明してきたように、**すでに自分は完璧だ**、と思うようにしたからでした。

セミナーは、一見すると希望の宝庫です。その輝きはあまりにまぶしく、とても効果がありそうにみえます。でも、頼りすぎても、じつはその宝箱は空き箱かイミテーションばかりなのです。僕もセミナーに頼りすぎていたところに、希望の箱を開けて、開けて、開けまくりましたが、本当に空っぽかりでした。

おそらく、**完璧になるなんて幻なんだ**ということに気づかないと、いつまでもパーチャルなセミナーという場から抜けられないでしょう。

上をめざそう、そのために自分の欠点を改善しようと考えても、いつまでたっても終わりは来ません。自分探しが止まらなくなって幻を追ってしまいます。

それよりも、いまのまま自分が幸せになれるものはすべてもっていることに気づきま

しょう。あとは、それをどう使うかだけです。

一度でもいいですから、「自分は必要なものはすべてもっている」と考えてみてください。少しだけかもしれないませんが、目の前の霧が晴れてきますよ。



欠点は見方を変えれば長所になります。
なぜなら、欠点の裏には長所があるからです。